

27 終わりの時を 誰が知る

1. コラール / 合唱 satb

誰が知る終わりの時を

s [ただ神のみ知りたもう。

天を目ざす地上の旅

近いのか遠いのか]

時は去り死が近づく

a [まもなく死と出あい、一つになるときがくる]

ああいかに早く来るのか

わが死の苦悶は

t [誰が知るわが口が臨終を告げるとは、

ゆえに常に祈って言う]

わが神、キリストの血により

わが終わりをよいものとなしたまえ。

2. 朗唱 テノール

わが生きる目的は 祝福の死をとげ

信仰を継ぐこと。

どんな時も墓の準備をし

わがなすことは

今日死すとも 常に悔いのないように

終わりよければ すべてよい。

3. アリア アルト

よおこそと言おう。

死がわが床にくる時

よおこそ来ませ

わが寝床に歩み寄る時

よおこそ来ませと

わたしはいおう。

喜んで従う。

死が私を招く時

深い淵に 喜んで従う。

すべての災い 悩みおも

わたしと共につれていく。

4. 朗唱 ソプラノ

ああ、この世を去り 天国にいて

花婿なる小羊である

キリストと共に牧場に伏させ

ああ御国を望まん。

5. アリア バス

いざ、さらば 世の喧騒よ

われは別れを告げん

わが片足 神の天国にありし

世の喧騒よ さらば

6. コラール

この世よさらば 天国に向かわん

そこには平和と まことの安らぎあり

世にいくさあり うつろな虚栄満つ

天国においては 平和と喜びあり。

1726年10月6日 初演 三位一体16

ルカ7:11-17 ナインの若者の復活

エペソ3:13-21

ナインの若者の復活の記事をもとに作曲された。

1,2曲で個々人の死に思いを寄せ、死を生目的とする。

3,4曲で死は歓迎されるものとなり、

最後の2曲は現世との別れが確認される。